

名古屋大学博物館野外観察園展示室の展示記録  
2011年12月から2012年10月まで  
Record of the exhibition at the Nagoya University Museum  
Botanical Garden  
December, 2011 to October, 2012

吉野奈津子 (YOSHINO Natsuko)<sup>1)</sup>

1) 名古屋大学全学技術センター

The Nagoya University Technical Center, Chikusa-ku, Nagoya 464-8601, Japan

名古屋大学博物館野外観察園展示室で2011年12月から2012年10月までに名古屋大学博物館のサテライト展示を4つ行った。本報告はその記録である。展示の企画、展示者との調整は野崎が行い、会期中の管理は吉野が行った。展示物に関しては展示者が作成を行っている。

## 1、展示報告

### (1) 野外観察園の四季

主 催：名古屋大学博物館

会 期：2011年12月5日（月）～2012年1月31日（火）

入園者数：247人

担 当：吉野奈津子・野崎ますみ・飯野孝浩・西田佐知子

### 展示の内容と特徴

2005年度から続けている「今月の野外観察園」は、毎月2種類ずつ生物を紹介しているポスターである。これをメインとし、一年分まとめて展示することで、野外観察園には四季に応じてどのような生物があるのかが認識しやすくなるのではと考えた。

そして、ポスターで紹介した植物が観察園内のどこにあるかが分かるように、「園内散策マップ」のコーナーを作り、ポスターで紹介している植物と、その植物が実際に観察できる場所とを、地図上に番号で対応させた。園内散策マップ手にしながら散策できるよう縮小版も作成した。「園内散策マップ」は飯野が担当した。

そのほか、花粉の形を科ごとにまとめた電子顕微鏡写真、故高木典雄名古屋大学名誉教授の樹木片標本を展示することにした。電子顕微鏡は野崎が、樹木片標本については西田が担当し、全体のとりまとめを吉野が行った。

### ごあいさつ

博物館野外観察園は2005年から一般開放を開始し、今年で6年目となります。

一般開放することで散策はもちろん、今までの研究活動以外の授業、サークル活動などにも利用していただけるようになりました。博物館でも観察会やイベントを開催し、野外観察園が人と自然をつなぐ場所となっております。

これまで「今月の観察園」としてその季節に見られる生き物をポスターにしてお知らせしてきました。今回はそのポスターをまとめてご紹介します。野外観察園の四季折々に見られる生き物をご覧ください。

ご紹介するにあたっては、電子顕微鏡を使って植物の花粉や、器官、昆虫を撮影しています。拡大すると想像もつかない世界がひろがっているを感じていただけたと思います。いつも目にする植物、昆虫の違った一面を楽しんでいただき、観察園に足を運んでいただくきっかけとなることを願っております。



図1. ポスター



図2. 展示室の様子



図3. 野外観察園園内散策マップ

## (2) 東山キャンパスの野鳥写真展

主催：名古屋大学博物館

会期：2012年2月6日(月)～3月23日(金)

入園者数：286人

担当：蛭薙観順

### 東山キャンパスの野鳥写真展

東山キャンパスでは年間を通して40種以上の野鳥が飛来しています。博物館は、生物研究会の有志と協力し、2年余りをかけて野鳥の生態写真を撮影してきました。その成果を2007年の企画展「名大キャンパスの野鳥」として公開しました。

企画展は当時、新聞でも紹介され好評を博しました。

今回は当時作成した写真パネルの一部を展示しています。キャンパスの豊かな自然を楽しむきっかけにいただければ幸いです。



図4. ポスター



図5. 展示室の様子

### (3) 徒然の写真展 —驚きのワンダーランド モンゴル—

主催：名古屋大学博物館

会期：2012年4月5日(木)～8月31日(金)

入園者数：676人

担当：東田和弘

#### 徒然の写真展 —驚きのワンダーランド モンゴル—

名古屋大学博物館では、現代モンゴルのありのままの姿を伝え、その上で日本がこの国とどのようにつきあっていくべきかを、感じ、考えていただければと、「大モンゴル展 Mongolia the great -A celebration of Mongolia and its people-」を開催しています。

ここでは「大モンゴル展」に関連し、一人の日本人が見聞きし、驚き、感じたモンゴルの“素”を紹介したいと思っています。

モンゴルはあらゆる面で、日本よりもずっと“テキトー”です。人々は大らかで時間を守りません。交通ルールもあまり守りません。約束を忘れていても、「あ、ごめん、ごめん」で済んでしまいます。ずっと日本で過ごしてきた人には、フラストレーションの溜まる国かもしれません。

でもモンゴル人は、あまりウソをついたり、人をだましたりしません。みな正直で、働き者です。とても純情で、



図6. ポスター

はにかみ屋です。自らの歴史とアイデンティティに自信を持つ、誇り高き人々です。そしてなにより、笑顔がとてもすてきな人々です。

本写真展を通じ、「一度、モンゴルに行ってみたいな」と思っていたことができれば、大変幸いです。

#### (4) 学生によるミニ展示 「生き物のかたちとおもしろさ」

主催：名古屋大学博物館

会期：2012年9月19日（水）～10月4日（木）

入園者数：74人

担当：西田佐知子，NUMAP

#### ごあいさつ

野外観察園でみられる植物や虫たちを素材として、名古屋大学の学生たちが展示制作に挑戦しました。

宇宙、文学、機械・・・博物館に集まったかれらの専門はさまざまです。そんな学生たちは一体どのような切り口から課題に取り組んだのか！？

ぜひ皆さんの目でお確かめください。



図7. ポスター図

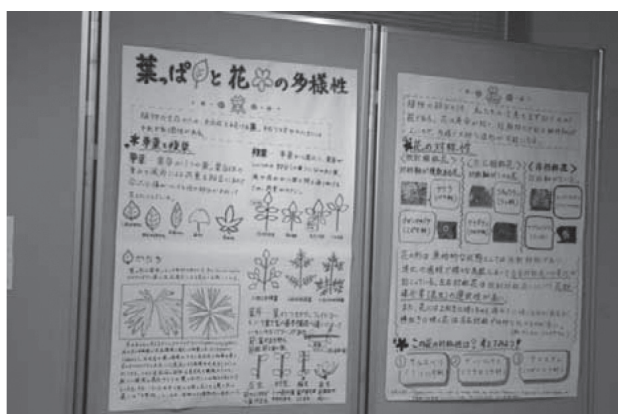


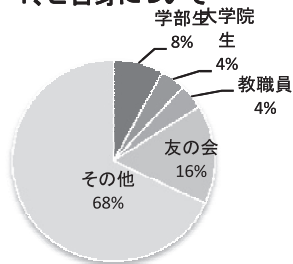
図8. 展示作品

## 2、アンケート結果と改善点

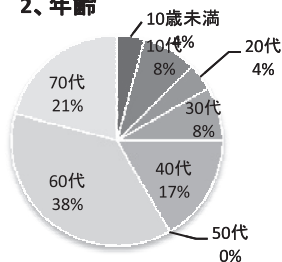
「野外観察園の四季」（以下「観察園」とする）、「東山キャンパス野鳥写真展」（以下「野鳥」とする）、「徒然の写真展—驚きのワンダーランド モンゴル—」（以下「モンゴル」とする）の3展示については、展示者に向けてのアンケートを設置した。展示室の机にアンケート用紙を置いてお

**野外観察園の四季**  
来園者247、回答数42

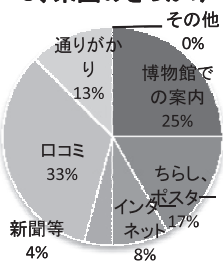
**1、ご自身について**



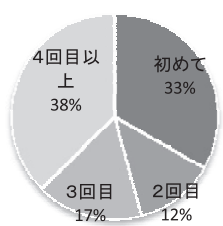
**2、年齢**



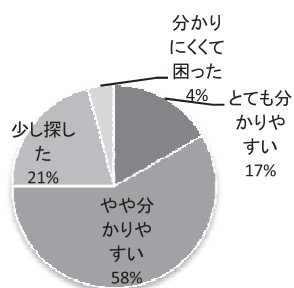
**3、来園のきっかけ**



**4、来園回数**

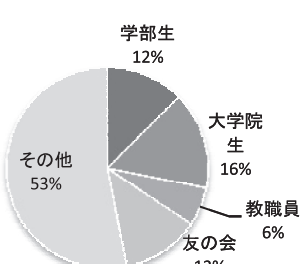


**5、展示室への案内は？**

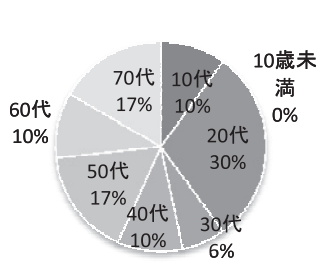


**東山キャンパスの野鳥写真展**  
来園者286、回答数32

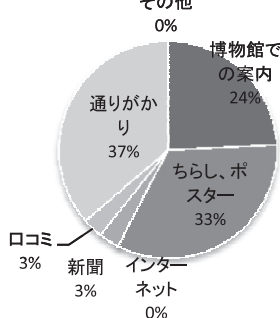
**1、ご自身について**



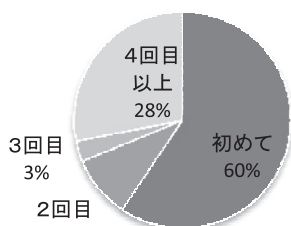
**2、年齢**



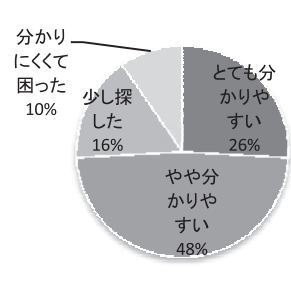
**3、来園のきっかけ**



**4、来園回数**

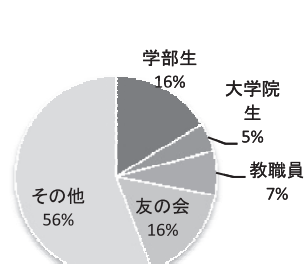


**5、展示室への案内は？**

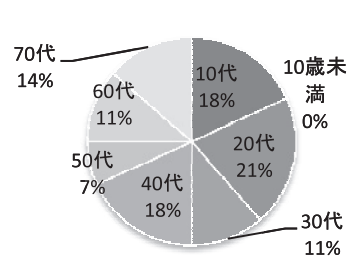


**徒然の写真展**  
—驚きのワンダーランドモンゴルー—  
来園者676、回答数43

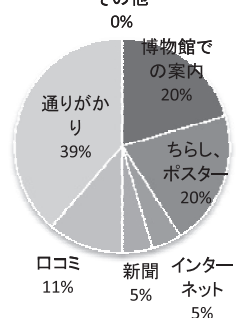
**1、ご自身について**



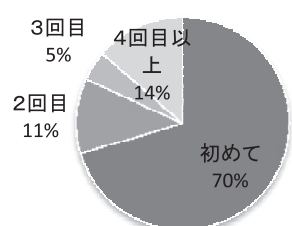
**2、年齢**



**3、来園のきっかけ**



**4、来園回数**



**5、展示室への案内は？**

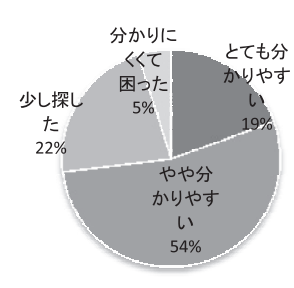


図9. 来園者へのアンケート結果

き、自由に回答する形式にした。回答数はそれぞれ42人、32人、43人で、来園者に関する質問と、観察園の入り口に関する質問についての結果が図9である。

アンケートの結果をみると、来園者はどの展示でも「友の会」と「その他」で構成される、学外の方が大部分であることが分かった。「観察園」においては80%を占めている。来園者の年齢層は「観察園」では60代以上の年配の方が半分以上を占めているが、「野鳥」と「モンゴル」では10代、20代の学生・大学院生と思われる年代の方の割合が増え、どの年代の方にもまんべんなく来園していただいていることがわかる。10代、20代の割合が名大関係者の割合よりも多いことから、他大学からも学生、大学院生と思われる方が訪れているのだと考えられる。

来園のきっかけは「観察園」が「口コミ」によるものが最も多かったのに対し、ほかの3つは「通りがかり」が最も多かった。学内を散歩する方や、学会などでたまたま通りがかった方でも写真展なら気軽に入ってみようか、という気になるのであろうか。そのほかのきっかけとしては、どの展示においても博物館での案内、チラシ、ポスターによる案内が多い。

「来園回数」は、「観察園」では口コミによる利用が多いためか、複数回利用された方が70%近くを占める。逆に「野鳥」、「モンゴル」では「初めて」の方が圧倒的に多い。通りがかりの利用が多いのが反映されていると思われる。

この結果より、「野鳥」や「モンゴル」といった写真を利用した展示は、知識の有無に関らず気軽に見学できるのではないかと思われる。野外観察園という施設の広報を目的とするならば、写真展の開催は効果がありそうである。

「展示室への案内」については、どの展示においても4～10%にあたる人が「わかりにくくて困った」と回答があった。入り口を分かりやすくするために「野鳥」では外の案内を1か所増やし、(図10)セミナーハウス1階にも2階へ促す表示を掲示した。しかし、アンケート結果では大きな変化は見られないので、もう少し来園者の視線の動きを考えた場所に案内掲示を行うよう努める必要がある。分かりにくいと答えた人は人数に換算すると1人ないしは2人ではあるが、一般に開放する施設である以上、誰が見ても分かりやすい案内ができるよう、引き続きアンケートをとりながら案内掲示を工夫したい。



図10. 新たに追加した展示室への案内板(矢印)

(2012年10月15日受付)